

栄光

説教・「恵みのターニングポイント」
秋葉睦子牧師…1
夏の集い………2
特集・
落ち込んでいる時に
読みたい聖句…4
説教・「宝の民」
久保哲哉牧師…6
CSキャンプ報告…6
長老のファイル…7
牧師の書斎から…8

説教

『恵みのターニングポイント』

使徒言行録16章6節～10節

ベルリン日本語教会牧師 秋葉睦子

使徒パウロは、宣教旅行を通して

す。

てキリスト教が世界宗教となるきっかけを作りました。パウロの伝道の動機は何だったのでしょうか？ それは単純に教会組織の拡大というより、キリストの救いと神の愛を一人でも多くの人に知ってもらいたいという純粹な思いが高じた故だったのではないのでしょうか。少なくとも教会が教勢にこだわる中、教会とは、宣教とは何かを考えさせられます。私の牧する小さなベルリン日本語教会についても、すぐ教勢を引き合いに出す宣教関係者もいました。しかし小さくとも途切れず続く礼拝と交わりの事実が変わりません。海外の友人たちの中には、自由な信仰表明さえできない人もいるので

パウロはまず出身地の小アジア地方への伝道を決めました。しかし計画通りにいきません。計画の失敗や苦難が人生には起こります。そのような時、神様の思いを中心に捉えることが大切です。パウロはおそらく内心、失望したことでしよう。そして祈りました。失意の時に神様に祈れる人は幸いです。必ず神様から答えを与えられます。私たちは自分の願いや理想、段取りにこだわりますが、神様に全き信頼をおいた一人の信仰者の生き方を見習いたいものです。

望へのターニングポイントでした。マケドニアはヨーロッパへの入り口です。ここからさらに福音が広がっていきました。一人の信仰者の計画の失敗や失意が、神様の計画の成就へ繋がっています。まさに恵みのターニングポイントです。

皆さんのターニングポイントはどのようなものでしょうか？ 私事ですが、牧師として生きること

を全く考えていなかった留学時にベルリン日本語教会に出会ったことは大きいものでした。自分自身さえ気づかなかった思いや祈りを、神様が掬い取って宣教の働きへと繋げてくださったのです。コロナ禍もある意味、ターニングポイントです。対面礼拝もできず、多くの教会が苦難を味わいましたが、新しい可能性が示され、また改めて対面礼拝の大切さも痛感しました。逆境の中の主の導きを改めて知った、恵みのターニングポイントでした。

世界宣教も同じことが言えるかもしれません。ドイツでも日本でも国内伝道には熱心でも、世界宣教となると自分と無関係と捉える

方が多いのが現実です。しかしこうして経堂北教会で、ベルリン宣教の働きを分かち合う機会を主は与えてくださいました。この繋がりは決して小さくありません。主の大宣教命令に思いを馳せ、ここに集う一人ひとりが、恵みと救いの福音を世界に伝える信仰者であるのです。

人間の失敗や苦難が、かえって神様の栄光の道になりうるといふ真理を私たちは知っています。主なる神様は信仰によって新たな道へ歩ませてくださるのです。ご一緒にそれぞれの賜物を生かして主の福音を多くの人に伝えていきましょう！



夏の集い

「ベルリン宣教を通して 福音を分かち合う」

ペトロの手紙一 3章15節
ベルリン日本語教会牧師
秋葉睦子

▽ベルリン日本語教会について

ベルリン日本語教会は80年代末に日本人牧師による日本語の礼拝から出発しました。私は3人目の牧師で2004年から牧会しています。礼拝には様々な人が集います。留学生、ワーキングホリデービザで渡独の方、ドイツ人との既婚者が中心ですが、韓国やドイツの方、日本語や文化に興味ある方、カトリック信者など多様です。信仰背景も様々で、超教派の群れとして歩んでいます。

ムで礼拝を守っています。以前は東アジア宣教関係者の助けが多くありましたが、メンバーも変わり、世界宣教への理解や意識も変わり、現地教会での礼拝場所や家賃の問題も頻発しています。高齢化や子ども礼拝ができないことも悩みです。しかしここにきて若い世代が増え始め、主のご計画が楽しみです。

▽コロナ禍でのベルリンの状況

コロナの状況はベルリンでも大変でした。ロックダウンで街に人が消え、対面礼拝もすべて禁止になり、イースターもクリスマスも軒並み行事は中止で、現地教会でも深刻な教会離れがさらに加速しました。日本語教会ではメールでの説教配信と電話での交わりを通して、主にある絆を繋ぎ続けました。規制緩和後は、教会墓地で屋外礼拝を守り、神様の恵みの可能性がいかにも自由で大きいかを知りました。ズームやスカイプ等を利用しての合同エキュメニカル礼拝や東アジア礼拝など、デジタルの可能性もこの機会に大いに得ることができました。まだ影響は続き

ますが、逆境を恵みに変えてくださる神様に感謝です。

▽戦争をめぐるベルリンの状況等

ベルリンをめぐる状況で懸念されるのはウクライナとロシアの戦争です。ベルリンではすぐに反戦・ウクライナ連帯デモが起きました。多くのベルリン市民が、組織でも個人でも、ウクライナからの避難民を受け入れました。ドイツ教会も細やかな配慮で、様々な事情や背景を持つ避難民の人々のフォローに奔走しました。しかし2023年7月現在、戦争の終わりは見えていません。支援疲れの声も聞かれ、簡単な問題ではないとの認識が広まっています。物価高騰やエネルギー危機など、生き方の転換が求められています。キリストを主と仰ぐ者として何ができるか、どのように人々に寄り添えるかを祈る毎日です。

▽世界宣教の広がり、今後の展望

邦人伝道にこだわる宣教師もいますが、日本人に限定せず多くの人に小さな群れの働きを通して福音に触れてほしいと、日本人教会

でなく日本語教会と呼んでいます。これまで多くの外国語教会と交わりがありました。ドイツ現地教会をはじめ、エチオピア正教会、カトリック教会、アメリカンチャーチ、ギリシャ正教会、シリア正教会、韓国語教会、台湾教会、中国語教会など実に様々です。中には同じように非常に小さい群れもあり、同様の問題や課題を抱えています。そのような中で互いに祈り励まし合い、故郷では実現しにくい交わりや協働を通して、主にある兄弟姉妹として恵みを分かち合えるのは意義深いものです。

世界宣教への意識の希薄さはドイツでも同じです。国内伝道を優先し、個人主義の傾向が強い地ゆえに、自己の救いのみ希求する人も少なくありません。しかしそのような中で、吹けば飛ぶような小さな群れであっても、主の豊かな恵みと導きとが確かにある。その姿を知ってもらおうことで、日本の皆さんへ良いフィードバックをできたらと思います。「小さな群れよ、恐れるな」との御言葉を胸に、聖霊の導きに委ね歩みたいと思います。

夏の集いに参加して

「夏の集い」を終えて

大友太郎

7月23日の主日礼拝後に行われた「夏の集い」は、今年度もコロナ感染症に配慮して会食なしとなりましたが、ともあれ無事に開催することができ、担当長老としてほつとしています（25日には自身がコロナ陽性となり、自宅療養しながらこの原稿を書いているのですが）。講師にベルリン日本語教会牧師・教団派遣宣教師をさ

れている秋葉睦子先生をお招きしたの講演は、先生のご家族とともに多くの教会員の参加も得て、実り多い会となりました。先生の奉仕されているベルリン日本語教会は、少人数の集まりで、また出入りの多い中、活動場所の確保の困難など、さまざまな問題に直面しながらも月に2回礼拝を守り続けていることを伺いました。行事や他団体との合同の活動など、スライドも交えてのお話を聞いて、色々な活動の仕方があるのだと思いました。さまざまな困難がある中で、息長く続いてき

たことに神様の恵みの豊かさを改めて感じることができました。

キリスト教団と思われているドイツでも、無信仰の人々の増加があることなどのお話は、日本基督教団の西南支区常任委員、東京支区常置委員を拝命している身として、経堂北教会をはじめとして、教団の教勢の衰えなどに直面している現状に否応なく向き合わされてしまいます。もちろん支区や教区の会議の中で折に触れ、どのように縮小していく教会を支えているのか、財政支援はどうするのかなど話し合っています。具体策を考えた上で、単に教勢が伸びればよい、減っていくのがだめということではなく、そんなことは私たちが思い悩むことではなく、ただひたすらに神様からいただいた愛と恵みの言葉を隣人に示してあげばよいのだと思っています。全て、神様の御旨のまま、私たちはその恵みを感じて受け、その福音をそれぞれの賜物を生かして周りに伝えていきましょう。

来年こそ、ともに会食し、ゆつくりと懇談できる「夏の集い」ができるようにと願っています。

私たちにできる伝道とは

牧内 歩

今まで世界宣教への意識が薄く、ベルリン日本語教会というものが存在することすら知らなかった私でしたが、秋葉先生のお話で認識を改める良い機会となりました。しかし同時に、私自身は残念ながら身近な友人にすら伝道活動ができない弱い存在だと改めて気が付かされました。

正直なところ、伝道から目を背けている自分がいることはずっと分かっていました。なので、改めて気付かされたという表現が適切かはわかりません。

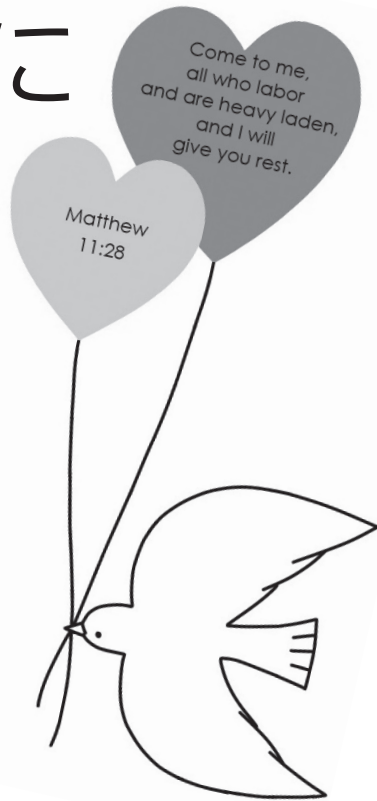
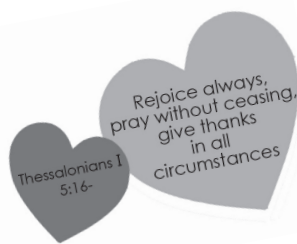
私は幼い頃より周囲には、家庭がクリスチャンホームであるということを明かしてきました。特に受洗して以降は、自分自身もクリスチャンだと伝えてきました。この行動が私の中の精一杯の伝道活動でした。私がクリスチアンであるということ聞いた友人が興味を持って、教会へのハードルを少しでも下げてくれたらいいなという思いですが、物凄く消極的で、受け身の、せめてもの伝道活動で、牧会に身を置いていらっしやる方

からしたら、ほんの些細な自己紹介だろうなと思い、恥ずかしくありません。しかしながら、今更周囲の友人たちにどう伝道活動をしていけば良いのか分からなくなってきました。小学生の頃であれば純粋な心で「今度のCSピックニツクに来なよ」と隣に住む幼馴染を誘っていました。今ではそんな簡単な誘い文句すら気を使って言えません。些細なことを気にしてクリスチャンとしての務めを果たすことができない自分を不甲斐なく思います。

そんな弱い私ですが、今年度からCSで教師としての任を授かっています。以前の『栄光』にも書かせていただきましたが、教師を務めるにあたり「子どもたちのCSへの期待に応える奉仕をする」というのをスローガンとしています。今経堂北教会に与えられている大切な子どもたちが正しいキリスト教を学ぶ環境を作り、新しい世代を育てていくことも神様が私に与えてくださった伝道のチャンスだと思えます。私たちのできる精一杯がどこかで世界宣教に繋がると信じています。

落ち込んでいる時に 読みたい聖句

辛い出来事や、難しい問題が起きたとき、
気持ちが沈んだり先が見えなくなることがあります。
そんな人に読んでほしい聖書の言葉を教えてください。



78回目の原爆記念日を迎えて

杉本正和

昭和20年8月6日朝8時15分、広島市内の上空で、一発の原子爆弾が炸裂しました。当時私は学童疎開で父母の郷里である江田島で、その日の朝を迎えました。空襲警報解除のサイレンの音を聞いて、防空壕から飛び出した途端、目も眩む閃光が走りました。ドカーンと物凄い轟音を聞いて、上空を見ると、古鷹山の上にもくもくとキノコ雲が広がってきました。その時はすでに爆心地の広島市内は、この世の地獄でした。それから大人の私たちは、来る日も来る日も船で広島に渡り、肉親捜しの毎日です。私はこの太平洋戦争で両親と妹を亡くしました。原爆が人生を変えてしまいました。小学1年生の戦争体験です。今年も原爆投下の時刻にはテレビの前に座り、記念式典を見守りました。「安らかに眠って下さい。過ちは繰返させぬから」の慰霊

碑に手を合わせて、世界平和をお祈りしました。式典で、小学6年生代表男女2人が「私たちが平和を作っていきます」と宣言。頼もしかった！

85歳になった今、振り返って、辛いこと、悲しいことが多すぎました。それだけに、小さな幸せに敏感でした。人との出会いに沢山の恵みと感動を覚えました。入学式の学長のスピーチで「若い日に、精神の鋭敏な時に創造主なる神を覚えよ」や、暗闇で生死をさまよう時「光に向って進め」の号令に我に帰り、奮い立ちました。福島県会津にある野口英世の記念館を訪ねた時、自筆の書「忍耐」を見て、その場を動くことが出来ず、不思議な力に押し出されて、前に進むことが出来ました。

「主の祈り」は日々の糧です。また、詩編23編「主はわが牧者…」を読む度に心が安らぎます。礼拝で、牧師の祝祷「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように」を聴く時、どんなにか安心感と生きる力が与えられ、新鮮な気持ちになります。(8月6日記)

導かれて

永井茅子

連日の暑さは、「地球温暖化」どころか「地球沸騰化」と言うようだ。世界で核兵器が使われた最後の日から約2万8千400日が経つと聞いた。どうか平和が実現するようにと祈るばかりだ。

人生80年近く生きるいろいろなことに遭遇。信仰が与えられた若い頃はすべてが新しく新鮮で希望に満ちていた。体は弱く6回の入院、3回の手術をも経験した。正直、その頃は落ち込んでいることも感じない日々を過ごしていたと振り返る。転勤を繰り返してしばらくしてから長男の腸の病気が見つかった時は落ち込んでしまったことを忘れることは出来ない。最近では医学も進み、薬も開発され、食事療法さえ守れば寛解の状態にもなり、余裕も出てきたし、普通の生活も送っている。本人が一番辛い思いをしたのも事実。すべてをゆだねなさいと分かっていた

ても、不安に陥ったり信仰が萎んでしまったりしたこともあった。

主は言われた。「現在の苦しみは将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りない」と私は思う」と。この御言葉で心が落ち着く日々を送っている。

この他にも、いろいろな人間関係に悩まされることも度々あった。昔はそんな時、信仰の同志の母に解決のヒントを求めたりもした。傷ついたり傷つけられたり、つまずき惨めにもなったけれど「さあ、私の交わりの中に帰って来なさい」との招きの言葉をくださった。自分の思いわずらいをいっさい神にゆだね、人の言葉ではなく神の言葉によって、慰めと励ましの力が与えられる者は幸い、という言葉を信じて歩いていきたいと思うている。

守られている日々

森口千津子

「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」(1コリント10・13)。

後期高齢者とは、よく言ったもので、75歳になった途端、道路の盲人用のブロックに躓いて、手首の骨折。翌年は病院へ友人をお見舞に行ったら、点滴をつけたまま尻もちをついていたので思わず駆け寄り、ベッドへ行きたいというのを抱き上げてしまい、椎間板ヘルニアに。入院、手術と整形外科と縁が切れない生活をしています。が、神様は耐えられないような試練には、遭わせることはいないと、口ずさみ日々の暮らしを見つめ直させる余裕を与えてくださっています。

ます。

経堂北教会へ初めて行った日の聖書箇所は「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい、休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ11・28-30)。重い心が溶けていくのを感じました。それから何年経つたでしょうか。いつも側において、見守ってくださっています。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそキリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです」(1テサロニケ5・16-18)。
力を抜いて委ねて暮らしていきましょう。

説 教

『宝の民』

出エジプト記19章1節〜6節
コリントの信徒への手紙二 4章6節〜9節

聖学院中学校高等学校教諭 久保哲哉

イスラエルの民に出エジプトの出来事が起こってから3ヶ月目のことです。主なる神は「私がエジプト人にしたことと、あなたがたを鷲の翼の上に乗せ、私のもとに連れて来たことをあなたがたは見ただ」(出エジプト19・4)と語りました。翼という言葉は旧約聖書では「神の守り」を意味します。また、鷲は大空を飛ぶ際には大きな翼を広げて、風をとらえて上昇するといわれます。当然、飛び立つまでには全力で羽を羽ばたかせる必要がありますが、上昇気流に乗ることができれば、風の力を全身に受けて進むことができます。よって、私たちも聖霊の風をこの身に受けながら、力をいただいてということでしょう。

りました。これは大きな恵みの宣言ですが、それと同時に厳しい御言葉でもあります。なぜなら、神の言葉に聞き従うことができないれば、あなたは宝ではなく、聖なる国民ではないということだからです。だからこそ、主イエスの時代のファリサイ派の人々は、神の言葉の厳しさを誰よりも真剣に受け止め、守り、宝の民となることを重要視していました。使徒パウロも、復活の主イエスと出会う前にはファリサイ派の中のファリサイ派であったため、律法を守るために命をかけていたことでしょう。

れたのでしよう。使徒パウロは「正しい者はいない。一人もいない」(ロマ3・10)と語りますが、同時に「私たちは、この宝を土の器に納めています」(IIコリント4・7)と語ります。重要なのはこの「宝」は神のものであり、その器である私たちは「土の器」と表現されていることです。土の器は、弱くもろいものです。その弱さの故に、人は神の掟を守り通すことができませぬ。そのことはアダムとエバが善悪の知識の木の実を食べて以降、罪を犯し続けたイスラエルの民の歴史が証明しています。

立て、罪の赦しをもたらすという仕方、救いを実現してくださいました。主なる神の御言葉が正しい幻をもって私たちの進むべき道筋を示し、主イエスが十字架によって私たちの罪を赦し、聖霊が私たちに聖なる民として歩み抜く力を与えてくださったのであります。私たちの内に福音の光が納められていなければ、十字架の福音の力により「私たちは、四方から苦難を受けても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、迫害されても見捨てられず、倒されても滅びませぬ」(IIコリ4・8、9)ということが起こるのであります。

では、主なる神は、私たちが聖なる者となるために、どのような道を用意してくださったのでしょうか。それは、十字架の福音という宝を土の器である私たちの内に納めてくださるという道です。正しい教えを知ったけれど、これを完全に守ることができない、土の塵で創造された罪人である私たちです。その故に宝の民ではないことが証明された私たちです。「神の掟」と「実践」の間に、神は主イエス・キリストの十字架を打ち

創世記の原初の時代、闇と混沌の中に「光あれ」とお語りになった聖なる神が、私たちにからみつく罪を滅ぼし、闇の子から光の子になるように勧めておられます。ただ、教えを説くだけではなく、これを成し遂げる力をも与えるために、主イエス・キリストが命をかけてくださいました。この恵みに感謝をもって、主なる神を愛し、隣人を自分のように愛する道を進んでいきましょう。ここに、キリスト者としての道があります。

CSキャンプ報告

4年ぶりにCS夏季キャンプに行ってまいりました。「奥多摩福音の家」はコロナ前と全く同じ姿で、そこに残っていてくれました。どんなにその存続に困難なことがあつたか、想像に難くありません。

未だコロナ禍と言える状況の中、参加してくれた生徒はわずか3名でした。中3女子（CSキャンプの大ベテラン。心優しい長女役）、小6男子（1人で何人分ものエネルギーでキャンプは大騒ぎ）、小3女子（知恵フル稼働で年上たちに付いて行く努力家）、彼らはキャンプ中に3きょうだいさながらの絆で強く結ばれました。

私たち教師は、この3年間で行事に対する勘のようなものをつつかり失ってしまったのではないかと心配しながら当日を迎えました。しかし奥多摩の地を踏んだ途端、まるで聖霊に包まれたかのようには心は高揚し、集中して子どもたちと遊び、学び、教えられ、夢中で3日間を過ごしました。心配など要らなかったのです。

教師として初参加の2名は頼りになる生粋の教会育ち。阿吽の呼吸の即戦力でした。

今年のテーマは『キリストの12弟子』です。私たちも経堂北教会を代表するキリストの弟子として、よく祈り、神と人とを愛し、仲良く3日間を過ごしました。そんな弟子たちの様子は、礼拝堂前に貼り出されている絵日記で、ぜひご覧いただきたいです。

俊彦じいじと、子、孫たちの騒がしい家族旅行！ そんなアットホームで温かいキャンプ。思い出に残るものとなりました。

（石室優子）

長老のファイル

夏も終わったはずですが、まだまだ暑い日が続いています。

これを書いているのは8月末ですが、今日も真夏日かもという予報です。今年是世界的気象異常で、雨の降らない地域で大雨、涼しい地域で高温、台風は予報を外してくるし、夏の予定に影響のあった方もいらしたのでは。

そんな中でも教会学校の夏期キャンプは少人数でしたがよい時を持ち、21日に無事に帰ってこられました。私が小学校のころは教会堂で半日の夏期学校でした。中学生になつて、泊まりがけのキャンプで丹沢、信濃追分、御殿場などに行きました。初穂会、青年会の頃はワークキャンプもありました。どれも楽しい思い出になり、教会とのつながりを深くすることが出来たと思います。

9月第1日曜日は、毎年振起日礼拝を守ります。特に若い方々のためにゲストの先生に説教していただきます。今年は東京神学大学学長の神代真砂実先生が来てくだ

さいます。ちょうど本号発行日当日ですので告知としては間に合いませんが、一人でも多くの方々のみ言葉を知ることが出来ますようにと祈ります。

秋になり、教会では振起日礼拝の後も行事が色々と予定されています。10月のバザーはありませんが、10月末と11月第1週にはミニバザーを予定しています。11月第1週は召天者記念礼拝、第2週は教会学校との合同礼拝、そして、創立記念礼拝、アドヴェントに続きます。

コロナ禍の終わりは見えていませんが一つひとつの準備をし、一人ひとりが気をつけて、礼拝を守り続けていくことが大切かと思えます。

（志摩真奈子）



Love is patient
and kind.
Love does not envy
or boast.
It is not arrogant
or rude.

Corinthians 1 13:4

掲示板



- 聖霊降臨節第16主日礼拝
9月10日(日) 午前10:15
説教「立ち帰れ」 新井美穂牧師
エゼキエル 33:7-11、マタイ 18:15-20
- 西南支区平和講演会
9月17日(日) 午後2:00 於・美竹教会
「シャロームへの格闘——聖書に聴く平和」
美竹教会牧師 左近 豊
- ルデヤ会講演会 9月24日(日) 礼拝後
「住み開き」 お話 及川敦子・沢田寛子
- 世界聖餐日 10月1日(日)
- 神学校日 10月8日(日)
説教 小林光恵神学生(東神大4年)
- 降誕前第9主日礼拝 10月29日(日)
説教 種房惇子教師

編集後記



▽この夏は帰省や旅行で飛行機によく乗りました。空から地上を眺め、地形の複雑さを見ると神の創造の力に感嘆してしまいます。(酒井)

「栄 光」2023年9月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：岸 俊彦
編集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

牧師の書斎から



梅雨が終わると庭師がやってきて、教会の庭を綺麗にしてくれました。今年は雨が少なく日差しも強かったため、枯れ枯れの庭となりました。木蓮、梅の木とツツジ、裏のソテツは枝や葉を落とされスツクリしました。ただ、家の周りには木は植えない方がよいと言われました。地中にある水道管、下水管、ガス管が根によって傷められるからです。木蓮と梅の木の根

が伸びて、下水管の枓が詰まって一騒動となったことが何度かありました。そのためちょっとした工事となったことを思い出しました。2年後の牧師の交代にあわせて、60年経った牧師館は改修する必要があります。法律上新築はできないため、柱だけ残した全面改修となるでしょう。その際は庭の整理も考えなければなりません。庭が綺麗なのは数日のことです。すぐに雑草が伸びます。芝刈り機で毎週刈るのですが、大して綺麗になりません。労力に見合わない

草刈りだと面倒くさくなります。草や細い枝を刈る電動バリカンがあります。四つん這いになるため腰痛を抱える者には不向きです。庭師の使っている草刈り機の家庭用を購入したらどうかと考えていました。エンジンではなくモーターで動く草刈り機です。オンライン会議で湯上がり風の牧師が、電動草刈り機で庭の手入れをしてサッパリしたと得意気に話しました。

作業着を着、長靴を履いて、ゴーグルを着けて、草刈り開始。確かに芝刈り機と違ってバツバツと草が刈れます。しかし、地面の土を掘り起こしたり、草刈りもムラがあり、庭は虎刈り状態。当然ですが庭師とは大違い。少しも綺麗になった気がしませんでした。それでも刈った草を集めればゴミバケツ一杯。芝刈り機の何倍にも変わります。しかし、重労働! 暑がますます身にこたえ、その夜は仕事になりませんでした。(岸)